

の現場から

⑦ 佐東地区

中植 俊明
営農指導員
指導員歴3年

J A広島市では、地域農業の振興と農業生産の拡大に向け、管内を17の地域に分け、それぞれの地域特性を活かした品目の選定や計画的な作付け、振興方策をまとめた「地域別農業プラン」を策定し、計画的な産地づくりと持続的農業の振興に取り組んでいるところです。

このページでは、17の地域の「地域別農業プラン」および営農・畜産指導員を紹介していきます。7回目となる今回は、佐東地区です。

地域別農業プラン〜佐東地区

◆現状と課題

基幹作物であり、伝統野菜である広島菜を中心とした野菜栽培が盛んで、広島菜はJ A広島市菜漬センターを含めた、広島市域の主要漬物メーカーに出荷されています。

川内地区における軟弱葉物野菜や果菜類については、年間を通じて広島中央市場を中心に、東部市場などにも出荷され、八木・緑井地区では、とれたて元気市への出荷が増えています。

地域全体としては、農地の宅地化、農家の高齢化が進みつつあるものの、二世帯、三世帯での農業経営をめざす農家もあり、円滑な次世代への継承と農家をめざす農家の技術と佐東

を実施。毎回多くの会員が参加され、地域農業の活性化を願う会員の共通の思いから、情報開示がとてオープンにされる場となっています。

町の土壌の恵み。守られてきた広島菜をより多くの方に知っていただきたいと「第一回広島菜まつり」を開催しました。品評会に出展された広島菜は、どれも申し分のない作品ばかりでした。日本三大菜漬の1つ、広島菜漬が多くの方に届くよう、しっかりと次世代に引き継がれる元気な産地をめざします。

所得の増加、生産の拡大に向け、取り組まれています。

◆振興方策

佐東地区の主要作物である軟弱葉物野菜については、栽培品目の品種ローテーション栽培を行い、きめ細やかな周年出荷による収穫量の増加をめざしていきます。

主力のエタマメは、幅広い作型ごとに対応できる品種の選定や、各品種の特性を十分に活かして栽培し、販売の増加を図ります。

川内地区の果菜類については、各農家が高度な栽培

ひとこと
産直市の売り場から生産現場に異動して3年目、高い技術を持たれる農家の多い佐東エリアは日々とても刺激のある現場です。自分で天候の移り変わりを読むのが好きで、自分の予報と天気がびつたり合えばうれしいです。



培技術で安定した生産をされていますが、さらに優れた品種の導入も図っていきます。また、単位結果品種の導入による、作業の効率化も検討し、生産量の拡大をめざします。

八木・緑井地区においては、とれたて元気市への出荷が増えており、少量多品目栽培を中心とした、農業経営へのシフトが必要となっています。ほ地や農業資材の効果的な活用を前提とした栽培計画を検討し、生産量の拡大、農業所得の増加を図ります。

佐東地区全体の広島菜の栽培については、近年の天候不順、温暖化等に対応していきけるよう、気象情報や栽培暦を活用し、各種病害虫の防除を徹底し、品質の向上や収量の安定確保を図っていきます。

◆推進品目

広島菜／ホウレンソウ／コマツナ／エタマメ
キュウリ／ナス

営農指導にあたり

歴史と伝統を重んじる佐東町の農家では、技術向上にかける情熱が冷めることはありません。J A YOUTH 佐東支部をはじめ、川内農事研究会では広島菜・エタマメ・キュウリ、緑井農事研究会ではエタマメ・葉物野菜、八木農事研究会ではエタマメ・シャルム、それぞれの品目で、年間各3回の立毛品評会

第一回広島菜まつりの様子



安佐南区 佐東の現場から

JA YOUTH佐東支部
倉本 守 会長

広島菜の出来を確認。「種をしっかりと守っていくこと」、「若い人がやろう!という気持ちになる農業をめざさなくてはならない」と、ほ場での話はつきません。



広島菜の育苗9,000ポット。シーズン中は、あと2回、育苗が繰り返されます。



広島菜委員会
溝口 憲幸 会長(右)と
宮本 英明 副会長(左)

伝統ある広島菜を守るため、川内エリアの農業情報はとてもオープン。世代を超え、地域が一緒になって農業を守ります。



佐東町農事研究会
植竹 正彦 会長

定植を終えたミブナの様子を見ながら、土砂災害以降、読めなくなった土壌での生育に向き合います。



八木農事研究会
関城 諭 会長

研究会で産地化に取り組む、冬どりタマネギ「シャルム」。勉強会での情報交換により学びを深め、取組みは年々前進しています。

